

## 063 悔い改めない町々

マタイによる福音書 11 : 20~30

20 それからイエスは、数多くの奇跡の行われた町々（の住民たち）が悔い改めなかったので、叱り始められた。

21 「**コラジン**、お前は不幸だ。**ベトサイダ**、お前は不幸だ。お前たちのところで行われた奇跡が、**ティルス**や**シドン**（→レバノン）で行われていれば、これらの町はとうの昔に粗布をまとい、灰をかぶって悔い改めたにちがいない。22 しかし、言うておく。裁きの日にはティルスやシドンの方が、お前たちよりまだ軽い罰で済む。23 また、**カファルナウム**、お前は、／天にまで上げられるとでも思っているのか。陰府（＝ハデス）にまで落とされるのだ。お前のところでなされた奇跡が、（不道德の町）ソドムで行われていれば、あの町は今日まで無事だったにちがいない。24 しかし、言うておく。裁きの日にはソドムの地の方が、お前よりまだ軽い罰で済むのである。」

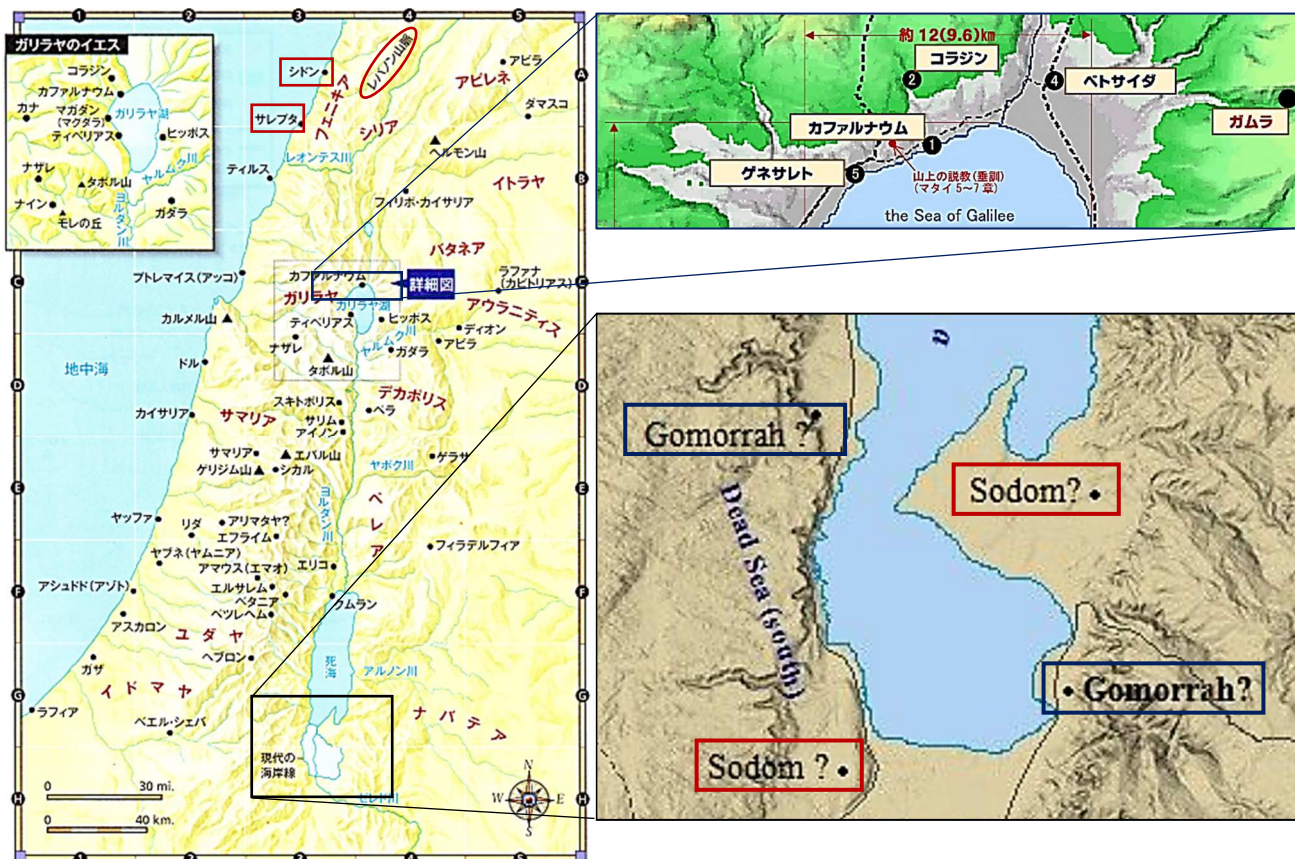
25 そのとき、イエスはこう言われた。

「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者（→ユダヤ教のリーダーたち）には隠して、幼子のような（信頼を持って近づく）者にお示しになりました。

26 そうです、父よ、これは御心に適うことでした。27 すべてのことは、父からわたしに任せられています。父のほかに子を知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかに、父を知る者はいません。

28 疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。

29 わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの**軛**を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。30 わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」



【一言】 初臨のメシアは祝福を与え、再臨のメシアは世の終わりにおける裁きを与える。

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 7 / 聖句等の総数 33250 <コラジン>2個<ベトサイダ>7個] (新共同訳) [検索語彙: コラジン・ベトサイダ]
S マタイによる福音書	11:21 「コラジン、お前は不幸だ。ベトサイダ、お前は不幸だ。お前たちのところで行われた奇跡が、ティルスやシドンで行われていれば、これらの町はとうの昔に粗布をまとい、灰をかぶって悔い改めたにちがいない。
S マルコによる福音書	6:45 それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、向こう岸のベトサイダへ先に行かせ、その間に御自分は群衆を解散させられた。
S マルコによる福音書	8:22 一行はベトサイダに着いた。人々が一人の盲人をイエスのところに連れて来て、触れていただきたいと願った。
S ルカによる福音書	9:10 使徒たちは帰って来て、自分たちの行ったことをみなイエスに告げた。イエスは彼らを連れ、自分たちだけでベトサイダという町に退かれた。
S ルカによる福音書	10:13 「コラジン、お前は不幸だ。ベトサイダ、お前は不幸だ。お前たちのところでなされた奇跡がティルスやシドンで行われていれば、これらの町はとうの昔に粗布をまとい、灰の中に座って悔い改めたにちがいない。
S ヨハネによる福音書	1:44 フィリポは、アンデレとペトロの町、ベトサイダの出身であった。
S ヨハネによる福音書	12:21 彼らは、ガリラヤのベトサイダ出身のフィリポのもとへ来て、「お願いします。イエスにお目にかかりたいのです」と頼んだ。

※聖書には「コラジン」が 2 聖句、「ベトサイダ」が 7 聖句、登場するのみで、情報量がほとんどない。  
→共に不信仰の町である。

**【参考】 聖書が教える裁きの原則 祝福や恵み、特権を多く受けた者には、多くの責任が伴う。**

(1) アモス書 3 : 2

地上の全部族の中からわたしが選んだのは／お前たち (イスラエルの民) だけだ。それゆえ、わたしはお前たちを／すべての罪のゆえに罰する。

(2) ルカによる福音書 12 : 48

しかし、知らずにいて鞭打たれるようなことをした者は、打たれても少しで済む。すべて多く与えられた者は、多く求められ、多く任された者は、更に多く要求される。

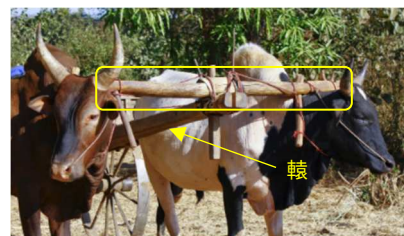
(3) ローマの信徒への手紙 2 : 12

律法を知らないで罪を犯した者 (→異邦人) は皆、この律法と関係なく滅び、また、律法の下にあって罪を犯した者 (→イスラエルの民、ユダヤ人) は皆、律法によって裁かれます。

**【参考】 軛(くびき)**

①車の軛 (ながえ: 馬車や牛車などの前方に長く突き出ている棒) の先につけ、牛馬のくびにあてて車をひかせる横木 (→黄色の枠部分)。

②自由を束縛するもののため。「人生の一からやっとなんか解放された」



**【参考】 報酬の軽重(コリントの信徒への手紙一 3 : 13~15)**

13 おのおのの仕事は明るみに出されます。かの日にそれは明らかにされるのです。なぜなら、かの日が火と共に現れ、その火はおのおのの仕事がどんなものであるかを吟味するからです。

14 だれかがその土台の上に建てた仕事が残れば、その人は報いを受けますが、15 燃え尽きてしまえば、損害を受けます。ただ、その人は、火の中をくぐり抜けて来た者のように、救われます。

→かの日: 人がどう生きたか、信仰に忠実であったかどうかを神が吟味する時